

事業所名

児童発達支援センターあゆむ いいで (放課後等デイサービス)

支援プログラム (参考様式)

作成日

令和7年

2月

26日

法人(事業所)理念	ノーマライゼーション(共生社会)の理念のもと、「ここで生まれ、ここで育ち、ここで暮らす」そんなあたりまえのことがあたりまえにできる地域社会に……。 「特別」を「特性」や「個性」としてとらえ、互いに支え合う地域社会に……。 「特別」が「あたりまえ」になる地域社会に……。 私達は、そんな地域社会づくりに貢献していきます。									
支援方針	地域の障がいのある未就学児の療育支援及び児童生徒の放課後の学童支援。また、その幼児・児童・生徒の保護者に対しての相談支援、幼児施設や学校等への訪問支援等、児童生徒の社会参加のために必要だと思われることを支援する。									
営業時間	9	時	30分	から	18時	15分	まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態等の把握を行う。 本人にとって放課後の心地よい居場所となり、心身の力が蓄積できよう環境を整える。 しっかりと活動を行い、ストレスを発散できる環境を設定する。 								
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 運動に繋がる活動を本人の能動的な部分にアプローチする。 外活動や周辺への散歩等に対し、自主性を第一に捉え活動する。危険回避を中心に見守ることに重点を置き対応する。 身体を動かすためにあらゆる環境(場所、道具等)を整え、楽しく伸び伸び活動し感覚を養い研ぎ澄ます。 								
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> やらされている状態ではない、自ら楽しんで活動できる環境等を見つける。 取り組む活動を自分で決め、「必要な物品があれば自分から必要であることを伝え用意してもらい受け取る」という、一連の流れを経験する。 取り組みたい活動が見つからない場合、本人のこれまでの活動状況を振り返り支援側からのアプローチを行う 								
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 活動を行う中で「話すこと」や「聞くこと」を大切にする。思いや考えを言葉に乗せることに重点を置き根気よく待つ。 必要に応じて、本人の思いや考えを言葉や会話に乗せるお手伝いをする。 								
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動で生まれるいざこざやもめ事に対し、必要以上の介入をせずに見守る。 居心地の良い人間関係を構築するための方法論を、利用者個々人のリズムに合わせて対応する。 								
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 困ったことや不安等をいつでも話せる土壌を構築する。 必要時に相談できる体制を整える。 保護者等から相談があった際、傾聴する技術を養い適切な対応とアドバイスができるように職員も学びを深める。 					移行支援	<ul style="list-style-type: none"> 生活の各ステージに適応できるようなプログラムを、個々人に合わせて作成し実施する。 			
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校、特別支援学校、関係機関、それ以外の機関とも必要性により連携を行う。 自立支援協議会にも積極的に参加し情報の共有を行う。 					職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修の活用、日々のOJTに根拠を持ち取り組む。 法定研修、事業所運営上必要な研修を受講する。 			
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> 長期休暇時には計画的に行事を提案し実施する。 子ども達の意見等を取り入れ、季節行事を適切に運営する。 保護者同士のつながりや情報交換の場として、定期的に「家族の集い」を開催する。 									